地域文化の振興と企業メセナ

角山 紹一*  

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度</th>
<th>大賞</th>
<th>奨励賞</th>
<th>地域賞</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1995</td>
<td>あさび湯館館開創（静岡県田方郡）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>創設 100年</td>
<td>トーレック（香川県高松市）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1996</td>
<td>広島信用金庫（広島県広島市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1997</td>
<td>稲内信用金庫（北海道稚内市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1998</td>
<td>海文堂書店（兵庫県神戸市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1999</td>
<td>みちのく銀行（青森県青森市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2000</td>
<td>ローザ（横浜市中区）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2001</td>
<td>六花亭製菓（北海道札幌市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2002</td>
<td>朝倉不動産（東京都渋谷区）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2003</td>
<td>大川創業（大阪府大阪市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>九州電力（福岡県福岡市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ケンテッココーポレーション（岡山県岡山市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>たまき地域文化財団（東京都国立市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>今井書店グループ（鳥取県米子市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>沖縄電力（沖縄県浦添市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>地域文化財団（兵庫県神戸市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>カスミグループ（茨城県つくば市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>肥前市（佐賀県小城市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>松山市会議所（香川県松山市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>飛騨峡（岐阜県飛騨市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>常陽文化センター（茨城県水戸市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>松尾堂書店（東京都小平市）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

ここで、上記の受賞企業や企業財団の中から、いくつかの活躍内容を見てみよう。

地域文化への深い関わり

まず、第13回を控えた2003年度の「大賞」は、茨城県水戸市の財団法人常陽文化センターによる「地域の芸術・文化の発掘と普及に20年目の挑戦」が受賞した。審査委員会において満点を獲得しての総合賞受賞である。}

*（社）企業メセナ協議会事務局長

*1990年2月に企業メセナ協議会が発足し、芸術文化支援を目的とする「メセナ」（フランス語の「メセナ」）が広く知られるようになり、これを契機に企業によるメセナ活動がとくに活発に行われるようになった。その後、バブルが崩壊し、長期にわたりの経済の低迷が続いているが、10余年を経た今日、企業メセナが日本の社会にそれなりに根ざしていったことは、協議会が毎年実施しているメセナ活動実態調査の結果からもうかがえる。

ところで、メセナといえば、資金や手土産に余裕のある中央の大手企業が行っているものと一般に考えられがちであるが、必ずしもそうではない。業界知られていないが、全国各地で地域の企業や企業財団によって、多彩なメセナ活動が積極的に展開されているのである。

本稿では、こうした地域における企業メセナの状況について報告する。

「メセナ大賞」にみる地域メセナ

企業メセナ協議会では、毎年優れたメセナ活動を行った企業などを選ぶ「メセナ大賞」を実施している。毎年、報道・他誌および120～150件程度の応募案件が寄せられて、各分野の専門家からなる審査委員会において審査された議論が展開された末、その年度の優れた活動として7～9件が選ばれてきた。

過去の受賞企業には、確かに東京や大阪の大手企業が数多く名を連ねているが、地域の企業や企業財団をけっして少なくはない。

参考までに過去に入賞した地域の企業や企業財団をピックアップしてみることのとおりである。

※（　）内は本掲所在地

1991年度 大賞 林原グループ（岡山県岡山市）
1992年度 特別賞 末永文化振興財団（福岡県福岡市）
         メセナ賞 在来（東京都江東区）
1993年度 特別賞 南日本放送（鹿児島県鹿児島市）
1994年度 特別賞 タダノ（香川県高松市）
         企画賞 三和酒類（大分県宇佐市）
は6200人余を数えている。また、7階には302席のホールがあり、コンサートや演芸会などを開催しているほか、一般の発表会にも貸し出している。
このほかに茨城県内各地の公共ホールでのコンサートや移動教室の開催、月刊誌『常栄賞文』（6万5千部）の発行、県内の伝統行事や歴史の遺産を取り上げたVTRの自主制作、地域の金融と貸貸の歴史資料を紹介する展示スペースと、郷土史料を中心に2万5千冊の蔵書を持つライブラリーからなる「常栄賞文館」の運営など、その活動は地味ではあるが実に多彩である。
そして、とくに注目すべきは同センターが約4万7千人家の有友会の会員を現在していることである。これだけ多くの中地区住民が年額4500円の会費を納めて、多彩なプログラムを楽しみつつ、その活動を支えているのである。

地域の伝統文化を今にぎりがえらせる
2002年度に地域文化賞を受賞した（株）飛騨屋石の活動は、まさにユニークである。岐阜県高山市の高山祭は、からくり人形を乗せた豪華な祭り台が全国的に知られているが、現在ある23台の屋台を江戸時代に作られたもので、保存のために手によって修復を重ねながら今日まで用いられてきた。しかし、「修復するだけでなく、新しい屋台をつくってみたい」という保存会の宮大工の声を耳にした（株）飛騨屋石社長・中田光太氏が発案し、現在では失われてしまった8台の屋台を新たに制作することを決意。それもたんに復元するのではなく、現代の感覚を基に修復の技を結集して「平成の祭り台」をつくり上げ、文化遺産として残すことを考えている。製作には、飛騨の匠たちのほか、西野杉、井波の木彫り彫刻、高岡の鋳金工、京都の雛人形、松任の太鼓など各地の名工たちも参加。89年には手掛けて以来、12年かけて8台すべてを完成させる。そして、これからの屋台を多くの人たちにぜひ見せてもらいたく、市街地に近い山中に巨大ドームを多く用いる展示施設をつくり、「飛騨高山まつりの森」をオープンさせた。現在では、ここに年間70万人の来場者が見学に訪れるという。

地域の社会資本づくりをめざして
1997年度にメソナ普及賞を受賞した六花町（株）は、北海道遠市に本社があり、前身の千秋廃業帯広支店時代から、和洋菓子の老舗として道内では知られている。同社の文化活動も、文芸、音楽、演芸、美術と実に多彩であり、しかも長年にわたって継続されている。
例えば、子供たちの詩を掲載している月刊誌「サヨロ」は十勝管内の小学校の教職員らが編集に携わって、59年から発行されている。また、創業50周年を機に始まったコンサートや寄席は、今なお続けられており、地域住民の楽しみのひとつになっている。
そして、現在の活動の核は、自社で運営する「中札内美術館」である。美しい自然環境に恵まれた帯広市近郊の中札内村に、92年、地域にゆかりのある画家・坂本直行氏の遺作を収集、展示する「帯広市近代館」を開設したのを皮切りに、96年には歴史的建造建築の饗食「帯広市」を移築しての「帯広市美術館」、97年には帯広市市町のレゴ建築を増築しての「帯広市町美術館」を開設。さらに2002年には、京都・建仁寺堂の天井画「双龍図」が当地で制作された頃から、作家の功績を記念する「京泉浮作美術館」がオープンした。

六花町では、これらの施設を将来、地域の社会資本に育つことを願っており、地域への深い愛着の思いがこの「中札内美術館」に結実したと言えよう。

高い理想のもとの文化活動
鳥取県米子市に本拠をおく今井書店グループは、1999年度に奨励賞を受賞した。本業に近いところでのメソナ活動であるが、その根底には高い理想がある。
72年の創業100年を機に「地域の文化活動の拠点になる」ことを目指し、市立図書館の設置活動の一環として、まず公民会館の一室を借りて児童文庫を開設。
その後、米子市内の書店内に「子ども図書室」を設け、児童図書を無料で貸し出し、15台に至るまで、本を50冊増量します」と呼びかけ、まったくまで県内全域に「子ども文庫」を誕生させた。
8年には、同書店が音頭をとって、各市町村の出版物3万点を展示する通称「本の団体」「フレックインとっとり」「87日県の出版文化展」を開催。これを機会に、優れた地方出版物を顕彰する「地方出版文化功労賞」も創設した。
注目すべきは、これらの活動を行うにあたっては、今井書店グループは裏方に徹し、あくまで市民が主体になるという運営方法をとってきたことである。こうした道道市民参加の運動はさまざまな広がりを見せ、県内に次々と図書館が誕生していたのである。
また、出版文化の発展には、書店人の育成が必要であるとの考えから、ドイツの事例を参考にして「本の学校」を95年に米子市内に設立。全国の書店経営者や従業員を対象とし、併設の売場での販売実習も含め、図書の企画、編集、印刷・製本、流通、経営などについて実地研修できる教育施設を運営している。
手に書籍の批評をねらいとした底の浅いものではなく、日本の出版文化の振興という高い理想のもとに、地
地域の特性をふまえた活動が展開されているのである。

メセナは企業の生命線

1991 年度の第 1 回メセナ大賞で「大賞」を受賞した岡山市の林原グループの活動もまた多彩かつユニークである。独自のバイオテクノロジ技術を開発して発展してきた本業と同様に、メセナ活動においても「ローカルな企業には、大企業や首都圏にある企業とは別の、果たすべき役割がある」との考えにもとづいて行われている。

例えば、刀剣や漆など地域に伝来されてきた文化や芸術の研究・保存活動に取り組み、これらの作品を展示する林原美術館を運営。一方、チンパンジーの生態観察を通しての人間研究、国内外の最先端の研究者を集めての林原フォーラムの開催など学術面でも地域から世界に向けた情報発信に取り組んでいる。

グループの中核である(株)林原の林原健社長は「メセナはわれわれの生命線」とまで言い切る。そして、企業メセナはたんに社会貢献や慈善事業など特別なものではなく、不可欠の企業活動であるとも語っている。

(2003年6月19日付日本経済新聞「私の履歴書」欄より)

地域の企業メセナがもたらすもの

上記の活動は、ほんの数例にすぎないが、毎年、メセナ大賞には、地域の企業や団体から数多くの応募案件が寄せられており、惜しくもまだ入賞に至っていないものが選ばれる活動も多い。また、これまで未応募の、隠れたメセナ活動はまだまだあるものと思われる。

中には、社内の活動がいわゆる「メセナ」に該当するという認識がない企業、あるいは「隠密であるべき」との考えから、あえてメセナ大賞に応募しないという企業もあるそうだ。

いずれにしても、その地域に生まれ、発展してきた企業であるがゆえに、そのメセナ活動の根拠には地域に対する深い愛着の思いがあり、その中で明確な理念や目的を持って進捗が実施されている点が共通している。

地域の芸術や文化が振興されることで、そこに住む人々の生活は活性化され、地域の魅力が増していく。地域からの多くの人々が訪れるようになる。その結果、地元の産業が活気において地域経済に好影響を与えることができることを国内や海外の多くの事例が示している。

企業が本来には関係の深い芸術・文化への支援活動を行うことの理由のひとつに、社会の文化的発展が結局は将来にわたって自社の安定的な発展につながることが挙げられるが、とくに地域における企業メセナは、まさにこの考えを実践に移しているものと言えよう。

おわりに

先述のメセナ活動実態調査の結果によれば、「メセナ活動の目的」を尋ねた質問に関して、第 1 位に多い回答は「社会貢献の一環として」であるが、第 2 位は「地域経済における芸術文化振興のため」が占めており、しかも下図のように年々増加の傾向にある。

このデータからも企業のメセナ活動において「地域」が特重されつつあることがうかがえるよう。

急速な経済発展が日本の社会にもたらした弊害のひとつは、地域特有の文化を消失あるいは弱体化させたことであろう。これからの日本の社会のあり様を考えるとき、地域の活性化は重要テーマであり、とりわけその文化的環境の再整備は経済問題に勝るとも劣らないむき絆の課題と思われる。

平成 13 年 12 月に施行された文化芸術振興基盤法において、国や自治体が地域の文化振興に取り組むことが定められているが、その施策を進める上で地域における企業のメセナ活動をさらに活発なものにすることも必要ではないか。

すなわち国や自治体において、例えば、企業のメセナ活動に対する税制上の優遇措置、あるいは顕彰制度の創設など、そのための具体的な助成策や奨励策が強く望まれるのである。

参考資料

【なぜ、企業はメセナをするのか】
（企業メセナ協議会編・トランザス出版 2000年刊）
【メセナマネジメント 戦略的社会貢献のすすめ】
（企業メセナ協議会編・ダイヤモンド社 2003年刊）
【メセナ note28 号・メセナリポート】
（企業メセナ協議会ニューズレター 2003年11月15日発行）